

まちの話 題



あなたの周りの身近な出来事や話題をお知らせください。
問い合わせ 市広報秘書課 ☎43・8113



大規模な山火事に備えて

林野火災防ぎよ訓練



▲放水する市消防団第9分団の団員

林野火災防ぎよ訓練が3月4日、宗像市の多礼ダム周辺で行われました。この訓練は、春の全国火災予防運動の期間に合わせて毎年行われているものです。市消防団は、大規模な災害が近隣市町で発生した際に援助を行う「福岡都市圏市町消防相互応援協定」に基づき応援出動したとの想定で参加しました。訓練は宗像地区消防本部と福津市・宗像市の消防団の3つが連携して行いました。

訓練では、火の元からおおよそ900m離れた防火水槽と400m離れたダムの2カ所から、消防車の中継による放水活動を行い、各団員と署員の連携を確認しました。市消防団の小林弘美団長は「ホースの連結など、日頃の訓練の成果を十分に発揮できました。今後とも訓練を重ねて、消防団と消防本部の連携を図りながら市民の安心安全を守ってきたい」と語りました。

工夫を凝らして世界遺産を解説

小学生による古墳群・歴史資料館ガイド

津屋崎小学校6年生の児童が、新原・奴山古墳群と、その出土品を展示しているカメラリアステージ歴史資料館のボランティアガイドを行いました。児童は昨年11月から、観光協会ボランティアガイドにガイドの内容や話し方などを教わり、練習を重ねてきました。児童たちは古墳群と歴史資料館に分かれて、市民や観光客、保護者にガイドを行いました。説明だけでなく、手作りの資料や模型、クイズを交えて工夫して案内していました。古墳群のガイドをした岡田大地さんは「古墳の模型を段ボールや割り箸で作って、分かりやすいように説明できました」と語ってくれました。



▲古墳群でのガイド



▲歴史資料館でのガイド

東京で世界の宝をPR

世界遺産シンポジウムを開催



▲世界遺産登録への応援に感謝を述べる原崎市長

昨年7月に世界遺産に登録された「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群のシンポジウムが2月17日、東京都で行われ、専門家による遺産群の講演と宗像大社宮司、イギリスの考古学者などによる座談会があり、およそ800人の参加者は熱心に聞き入っていました。原崎市長からは、新原・奴山古墳群の今後の保存整備の展望や市内の観光スポットについての紹介も行われました。

地域への感謝の思いを形に

起生会に車いす寄贈



▲2社から車いすを受け取る宮協理事長(左)

株式会社ヒューマン&アソシエイツ保険クリニック八幡店と朝日生命保険相互会社は、社会福祉法人起生会に車いす1台を寄贈しました。「地域に恩返しをしたい」との思いから始まった2社の合同活動は、今回で4回目です。起生会の宮脇一彦理事長は「大切に使用していただきます」と感謝の言葉を述べました。

和と洋の服飾雑貨店

津屋崎千軒古民家「杜胡」がオープン



▲和と洋の雑貨や服飾品が並ぶ店内



▲海外まで商品の買い付けに行ったという田中さん

津屋崎千軒古民家に「杜胡」が、3月1日にオープンしました。この古民家は、市が寄贈を受けて改修したもので、築92年を迎える建物です。古民家の雰囲気を生かし、生活雑貨や服飾品、軽食の販売を行っています。店主の田中一将さんは、「静かな時間が流れている津屋崎千軒で、ゆっくりと過ごせる場所になれば」と話してくれました。営業時間などの詳細は、杜胡のホームページをご覧ください。

料理を作る喜びを

サンテラスとの合同料理教室



▲料理の仕上げに盛り付けを一緒に

市食生活改善推進会は、2月27日に福岡サンテラスの利用者と料理教室を行いました。これは、障がいを持っている人に料理を楽しんでもらおうと、毎年1回行われています。宗岡浩子会長は「今回で18回目です。この日を楽しみにしている人も多くうれしかったです」と語ってくれました。